

# 碩心

題字は松井岳洋筆

No.364

平成16年3月

発行

(社)日本詩吟学院岳風会 認可  
神奈川 碩心会

発行者 加藤岳洵  
編集者 磯村岳朋

神奈川県葉山町城内206  
Tel/Fax.046-875-3723

## 人を動かす

会長 加藤 岳 洵

古い話で恐縮ですが、私が十八歳の時に読んだ一冊の本が、甦ってくる今日このごろです。

それは、一九三六年に初版が発行され、今だに人生をゆたかにする書として、発行以来二百刷近くを重ねた世界的なベストセラーでカセットまで登場している、アメリカ人デー・カーネギー著「人を動かす」の書です。

その中の「人を動かす三原則」の一つとしての文章の中に

「三十年前に、わたしは人を叱りつけるのは愚の骨頂だと悟った。自分のことさえ、自分で思うようにならない。神様が万人に平等な知能を与えたまわなかったことにまで腹を立てたりする余裕はとてもない」といったのは、アメリカの偉大な実業家ジョン・ワナメーカーである。ワナメーカーは年若くしてこの悟りに達していたのだが、わたしは、残念ながら、四十近くになってやっと、人間はたとえ自分がどんなに間違っただけでも決して自

分が悪いとは思いたがらないものだというのが、わかりかけてきた。

他人のあら探しは、なんの役にも立たない。相手は、すぐさま防衛体制をして、なんとか自分を正当化しようとするだろう。それに、自尊心を傷つけられた相手は、結局、反抗心をおこすことになり、まことに危険である。

世界的に有名な心理学者B・F・スキナーは、動物の訓練では、善いことをしたときに褒美をやった場合と、間違ったときに罰をあたえた場合とをくらべると、前の場合のほうがはるかによく物事を覚え、訓練の効果が上がることを実証した。また、その後の研究から、同じことが人間にも当てはまる事が明らかにされている。批判するだけでは永続的な効果は期待できず、むしろ相手の怒りを買うのがおちである。いま一人偉大な心理学者ハンス・セリエはこういう。

「われわれは他人からの賞讃を強く望んでいる。そして、それと同じ強さで他人からの非難を恐れる」

教場で指導する人、また、指導を受ける人、まさしく、肝に銘じたい文章であり、心しなければと思う次第です。

## 「第115回全国吟道大会」出吟並びに 吟行会の申し込みについて

◎全国吟道大会及び吟行会

日時・10月10日(日)9時

会場・神戸国際会館こくさいホール

吟行会日程・10月10日(日)12日(火)

会費・8万円(出吟料金を含む)

締切・4月26日(月)

○申し込み方法

氏名、生年月日、住所、電話番号を記入の上参加費を添えて総務松井岳篁まで  
(Tel.046・856・9232)

(注意)参加人数が定員になり次第締切ります。お早めにご希望いたします。

○日程表

・10月10日..のぞみ3号・品川(6..58)

↓新横浜(7..09)↓新神戸(10..10)

↓こくさいホール↓有馬温泉泊(18..30)

・10月11日..有馬温泉↓明石大橋↓震災記念公園↓琴平泊

・10月12日..琴平↓大歩危遊覧船↓高知

竜馬空港↓羽田空港

## 行事予定

### ○ 碩心会春季審査会

日程・3月28日(日)

会場・逗子市図書館ホール

### ○ 碩心会温習会

日程・6月20日(日)

会場・葉山町福祉文化会館

### ○ 碩心会夏季吟道講座

日程・7月4日(日)

会場・逗子市図書館ホール

### ○ 碩心会総会

日程・7月10日(土)

会場・逗子市図書館ホール

### ○ 碩心会秋季審査会

日程・9月19日(日)

会場・逗子市図書館ホール

### ○ 碩心会皆伝会

日程・10月17日(日)

会場・未定

### ○ 碩心会地区温習会(逗子・葉山)

日程・11月28日(日)

会場・逗子市図書館ホール

## 新総伝者名(平成16年1月1日付)

53 一之瀬岳保	55 鈴木岳虎	56 行谷岳成
57 板橋岳雅	60 祐野岳孝	66 井原岳松
67 福本岳辰	69 大屋岳信	以上8名

## 総伝になって

堀内 一之瀬岳保  
平成16年1月1日付で、最高伝位である総伝に昇格しました。

私の詩吟との出会いは、昭和49年1月、堀内教場に入会しましたのが、詩吟との出会でした。先生方、先輩方の吟を聞きながら、私もいつの日か、あの様に吟じられる様になりたい、希望にもえた頃でした。初段、二段と進み審査と共に、教場の皆さんに、励まされて来ました。今思ってみると、私には七段の審査の時、一番つらい思出でした。どうしても吟がうまく出来ない、審査を一回休みやつと立ち直り、十段まで進む事が出来ました。私は20数年吟を学んで来ましたが、師範の受講もしてない私は、当然皆伝止りと思っていました。それが総伝認許を頂き感激しています。これからは初心を忘れず、吟を友として総伝の名に恥じる事なく、吟詠に励みたいと意を新たにしたいです。

## 70周年「記念誌」発行について

記念誌編集委員会委員長 松井岳篁  
碩心会は、3年後の平成19年に創立70周年を迎えます。

その記念事業の一つとして記念誌を発行することが昨年の総会で決まりました。

昭和12年に松井岳洋先生によって創設された碩心会は、日本詩吟学院の中でも有数の歴史と伝統のある会ですので、碩心会誕生当時の状況やその後の成長・発展ぶりを記録し、後々の参考になるものしたいと思います。つきましては、会員の皆様の中で、特に古い資料・写真・エピソード等をお持ちの方がいらっしゃいましたら、左記の記念誌編集委員迄ご連絡ください。

### 記念誌編集委員

編集委員長 松井岳篁 副委員長 内山岳青

編集委員 矢嶋岳悦・加藤岳相・千葉岳関

中村岳愛・中村岳郵・村田岳瀨

宇都宮岳徳

編集顧問 加藤岳洵

# 教場 訪問

## ◆悠吟教場

**教場のなりたち** 悠吟支部の名称は、平成7年秋当時師範であった一柳道岳先生が病気で逝去されてから、それまでの逗子A一柳教場が教場全員の会議で支部設立の承認を受けるべく決めたもので、意は吟道の永遠の発展を願って付けた名前である。

昭和47年頃、私が逗子商店街のご主人方を門弟として銀詠支部を設立した。その頃一柳さんは只一人の門弟として、私と共に吟道に励んだ。その後資格を取るべく努力をされ、資格取得と併せて商売の方も営業タクシーの運転手に変られ、車内に吟詠のテープを流したりいろいろ工夫して門弟さんを増やした。その後、教場独立を申し出されたので私は根岸元会長に一柳さんの直接指導をお願いし銀詠から移籍し教場はA支部の管轄内とした。平成5年頃か、病に倒れ入院され一柳教場の代講依頼を受け快く引き受けた。その何か月か後、一柳先生は不帰の客となられた。

かつての沼間、銀詠支部がそれぞれの理由で解散し、私が指導した方々が現悠吟支部へ合流され現在に至っている。(千葉岳関記)  
**この日のようす** 今年トップの1月23日(金)欠席1名、大寒三日目の大変寒い日でした。悠吟は火曜金曜の2教場があり、日程を合わせるのに大変だったそうです。午後6時開講

「傾心会の詩」「神奈川県本部詩」を先ず合吟する。本日の教材「寒梅」の素読、詩の形式「五言絶句」の落とし方。作者新島襄の紹介、詩文の説明これは千葉岳関先生の得意とするところ。先生の模範吟の後、順に独吟しそれを先生が直す。全員真剣に先生の話を聴き寒さもいつか忘れ、熱意で顔が皆火照っていた。(広報部 記)



悠吟教場の皆さん  
 ◎は担当指導者  
 下村佳風 松岡杏岳  
 時田千風  
 小野裕岳 小野祥岳  
 星野清泉  
 渡辺香風  
 中村紫風 ◎千葉岳関  
 大前智岳  
 松本宗泉  
 高館恒風 人見海岳

## ◆堀内支部B班

**教場のなりたち** 昭和38年4月に支部の第一号として会員5名により堀内支部が誕生し、元町停留所前の消防団詰所2階で稽古を始め、同41年10月に教場を現在の堀内会館に移し、同44年には会員数22名となりA、B班の2教場に分割された。以降各班とも順調に会員を増やし同54年には会員総数64名となりA、Eの5班に構成しB班は17名であった。同55年4月より加藤圭岳(現岳洵)先生がB班

の指導を担当し現在会員7名で毎週金曜日稽古に励んでいる。

**この日のようす** 2月27日午後7時30分堀内会館に加藤岳洵先生のもと6名の会員が集まり、稽古が始まった。ミフアラシドの上行・下行の音階で2、5本の発声練習を繰り返す。次に「吟道精神」「吟道訓」の合吟。これは稽古の始めに必ず行っているとの事。5/3の神奈川地区大会、5/29の県本部大会に向けての課題吟を合吟、連吟で練習する。入会して間もない人もいれば、在籍20年以上の人もあるが、お互い励まし合い、和気あいあいとした練習風景だった。アクセントや発声法についての注意があった。特に「ん」の発声は口を軽く閉じて舌尖を上顎の歯の付け根に置く様に、又余韻は最後まで口の形を変えない事が大切等の指導があった。終わりに「弘道館にて梅花を賞す」を合吟して練習が終った。



堀内B教場の皆さん  
 ◎は担当指導者  
 白井照岳 小林 昭  
 ◎加藤岳洵  
 村上知久  
 加藤美岳 (松井岳堂)  
 角田有山 野田公岳

# ふれあい講座受講生徒の感想文

『碩心』362号で紹介した葉山中学「ふれあい講座」(第二回)を受講した生徒より感想文が寄せられましたので今後適時披露します。

中屋 航平

詩吟は地味なものだと思いましたが、やってみて意外と面白いものだと思います。実はおばあちゃんもやっていて、やっている時見ると、とてもすごいし、よくあんなに声が伸びせるなと思いました。しかもとても真剣で難しそうだったけど、意外と簡単でした。

江頭 宏美

今日は私達に詩吟とはどういうものか教えて下さり有難うございました。講座が詩吟に決まった時、正直少しがっかりしました。詩吟がどんなものかよく知らなかったからだと思います。でも今日教えていただいた興味が出てきました。本当に有難うございました。

横塚 拓也

楽しい2時間有難うございました。今日習った詩吟は絶対に忘れません。

## 俳句

大寒や小腹がすきて餅を焼く  
しあわせの年越し豆を手にあます  
風花や托鉢僧の白脚絆

風 早 後 籐 道 岳

雲水の辻に散り行く春北風  
托鉢の声遠ざかり木の芽風  
飛び石に誰の並べし落ち椿

堀 内 上 野 花 山

## ★原稿大募集★

次号より『わたしの雅号の由来』シリーズを企画しました。曰く因縁がありそうな凝った雅号(伝号)をお持ちの方、どうぞ命名の由来をご披露下さい。順不同で寄稿をお願いいたしますので是非ご協力下さい。 広報部

開催日：H16年1月12日(月・祝)		開催場所：レイ・ウエル鎌倉	
<b>(収入)</b>			
参加費	511,000	3,500×146名	
新総伝よりお祝い	14,000	1,000×14名	
お祝い	20,000	ご招待 鹿嶋岳久・加藤岳心両先生	
合計	545,000		
<b>(支出)</b>			
料理代	400,000	弁当・料理2,700×148名、ビール、ウーロン茶	
清酒	13,860	新総者より寄贈20本	
ミカン	11,550		
カラオケ装置	10,500	1台(税金含む)	
会場費	24,400	ホール・集会室・第4会議室・第2和室	
会議費	9,250	企画部・担当支部会議	
普通傷害保険	4,410	日動火災(通院/日150,000入院/日300,000)	
慰労費	5,000	担当支部慰労費	
事務経費	14,970	事務用消耗品	
雑費	1,380	茶葉他	
お礼	6,000	尺八・模造紙・揮毫代	
お車代	20,000	ご招待 2名	
余剰金	23,680	残金は次期繰越し(企画部保有)	
合計	545,000		

## ○入会(3月1日付け)

421 村上 知久 葉山町堀内1892

(堀内B) ☎046・875・9832

422 田邊 隆治 葉山町堀内2100・60

(東伏見) ☎046・875・4251

423 高松 利男 逗子市逗子7・10・5

(真澄) ☎046・871・5949

## ○退会(2月1日付け)

375 小峰辰夫(堀内B)

## ○退会(3月1日付け)

274 山本野山(真澄) 286 安田幸山(真澄)

168 大塚寛岳(松和) 173 南湖収岳(松和)

○支部移籍(2月1日付け)  
1 千葉岳関 逗子A支部より悠吟支部へ

## 編集後記

春季審査も終わり、ほっとした事でしょう。世間では、BSEだとか、鳥インフルエンザとか、飽食の時代に、しつぽ返してしようか、暗い出来事ばかりで、気持ち沈みます。身の回りの楽しい事の投稿をお待ちします。

広報部

16年3月現在	会員数
葉山地区	162名
逗子・大船地区	123名
合計	285名